

令和5年度筑波大学医学群訪問

- 1 目 的 医学部医学科に進学希望を持つ高校2学年生徒が、筑波大学医学群を訪問し、医学科での授業を体験するとともに、附属病院での医療現場等を目の当たりにすることにより、医学生の勉学や学生生活、医師の社会的意義、職責の重大性等を認識して、進路意識と勉学意欲の更なる高揚を図る。
- 2 日 時 令和5年10月30日(月) 13:30～15:45
- 3 対象者 医学科を志望する2学年の希望生徒
- 4 会 場 筑波大学附属病院

〒305-8576 つくば市天久保2-1-1

TEL : 029-853-3412

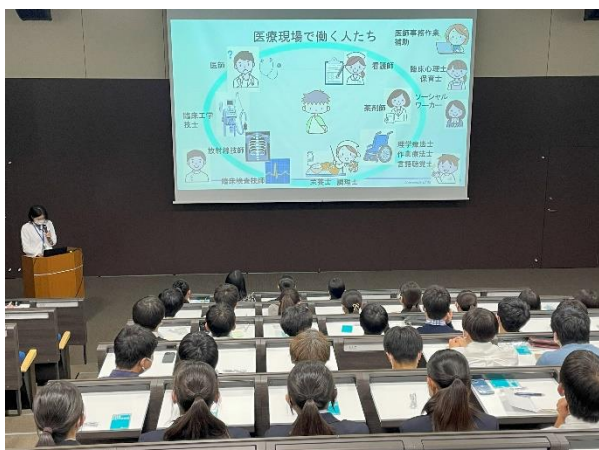
5 内 容

オンライン実施となった過去2年と異なり、今年度は実際に大学を訪問し先輩や先生方とお会いすることができ、ここまで医療現場を見せていただく経験の少なかった2学年の生徒達にとって、特に意義深い行事となりました。

当日はバスで大学へ向かい、医学科生用のカフェテリアで食事を済ませたあと、午後に大講義室に於いて筑波大学医学科の詳細について説明をしていただきました。興味深いトピックばかりでしたが、特に筑波大学の強みについてのお話は大変印象的でした。講演後の生徒達からの質問にも丁寧にお答えいただきました。

続いての病院施設見学に際しては、筑波大学附属病院の小児科:田中先生、救急・集中治療科:井上先生にご協力頂き、ICUなど普段見ることの出来ない病院内の施設の紹介や、病院内で働いている医師の仕事内容を詳しく説明して頂きました。見学から戻ってきた生徒からは「あそこまで見せていただけたとは思っていませんでした。」という声が多く聞かれました。また、一部の生徒は特別に医学部生用の図書館を見せていただき、そこで一心不乱に学ぶ人の多さと熱心さにも感銘を受けた様子でした。

大学見学を希望する高校が多いなかであり、実施にあたっては日程調整等ご苦勞をおかけしましたが、改めて生徒達に医学を志す意味を実感させることができました。そのうえ、事後研修として各研究室の内容を詳しくわかるようにと、期間限定で研究室動画を見ることもお許しいただき、11月28日にクラス全員で視聴する機会を設けられたのも大変幸いなことでした。



講堂での講義



教室での動画視聴

以下は参加生徒の感想の抜粋です。

< 大学訪問 >

- ・今回私は、筑波大学の「幅広さ」を肌で感じました。以前、オープンキャンパスの際に、筑波大学は真の総合大学であり、研究においてスーパーグローバル大学の指定も受けていることから、様々な分野を網羅していることを知ることができました。その分野を横の幅広さというのであれば、今回の筑波大学病院では医療分野という1分野での縦の幅広さを感じることができました。病院内の見学で最も衝撃的だった場所はICUでした。ICUは重篤な患者さんを治療する特殊な病棟であり、いままで感じたことのないような異様な空気の重さがありました。迅速な対応が求められる切迫した状況下でありながら、そこには、医師、看護師、臨床技工士といった様々な職種の方々が連携していました。医療分野の中でも、多くの職種の方が組織を作り連携する、すなわち1つの分野の中で縦の繋がり、幅広さを持つということの重要性を理解することができ、とても貴重な体験となりました。

< 研究室動画視聴 >

- ・地域医療の研究室は医学の技術や倫理を学ぶというよりは、社会や世の中の情勢を知るための所だと思いました。急性医療と地域医療の違いが想像より大きく驚きました。
- ・臨床疫学には「集団内での健康、疫病に関する状態や事象の分布、決定要因の研究、かつその健康問題を解決する対策に適用する学問」という定義が根本にあり、この定義自体が大変に意味深く重要なものであることがよくわかりました。
- ・臨床薬理学研究室の動画を見て、薬を体内で壊す能力の個人差にも注目することが必要であることを知り驚きました。また、現代ではバーチャル臨床薬物動態試験で薬の飲み合わせなどが研究できることも印象的でした。